

おひざのうえで 2024①

(副園長の子育て応援通信)

「共感性」

せんりひじり幼稚園 副園長 安達かえで



給食も始まり、子どもたちも少しずつ生活の見通しがついてきましたね。一つ一つの大丈夫を積み重ねて安心し、好きな遊びを見つけて遊び込む様子が見られます。

子どもたちは日々、大人の想像以上に色々なことを感じ考えながら過ごしています。特に、新年度は、新しいことだらけの中で、子どもたちの学びも多く、心を揺さぶられながら過ごしています。少し疲れてきている子もいるかと思えます。最初は大丈夫でも、最近になって離れる時に泣いたり、「ママにあいたい」「かえりたい」「きゅうしょくたべない」という子も出てきました。そしてそんな時は「泣きたくなかったよね」「ママに会いたかったのね」「もう少ししたら帰ろうね」「ちょっとだけ見てから食べるかどうか考えようか」などなど…先生たちの愛情いっぱいの受け止め、共感の言葉が日々溢れています。

お家でも、疲れて帰ってきたお子さんをたくさん受け止めてくださっているかと思えます。

「時には厳しく時には優しく…」や、「受け止めと切り返しを繰り返す」、「子どもの興味の赴くままに」…など、子育てに関するキーワードは多々ありますが、そうやってもうまくいかないことの方が多かったです。いずれもケースバイケースなので、正解がどこにあるのか分からなくなることもあるのではないのでしょうか。その曖昧な中で、終始むすがしさを抱えながら子どもに関わっていくのは大変かと思えます。正解がわからないこと自体、ストレスを感じることもあるでしょう。

「ネガティブ・ケイパビリティ能力」という言葉を聞いたことがある方もいるかと思えますが、今まで経験したことのない変化や難しさに耐え、じっくりと答えや解決策を探求していく力です。コロナで前代未聞の事態の時によく取り上げられていましたが、コロナが終息しても社会の変化は著しく、答えや解決策が出せないことがたくさんあると思えます。子育ての経験をしている人が、この能力が高いと言われるのは、迷いながら何が正解なのか分からない中で前に進んでいった結果、「ネガティブケイパビリティ能力」が自然と向上していったのでしょう。

子どもの育ちは目に見えにくいので、特に毎日見ている親にとっては変化が分かりにくいかもしれません。子どもの困った状況を見て「育っていない」と感じる時があるかもしれませんが、それは育ってきたからこそ見せる姿だったりします。そう思うと、子育ての答えは一人では導き出すのが難しく、周りの人たちの視点やアドバイスや支えが必要になってきます。

また、「ネガティブ」な考えを「ポジティブ」に変えていく時に、必要なのが「共感性」だと思います。共感し理解してもらうことで次へのエネルギーが生まれます。

新たな関係づくりの新学期。大人と子ども、子どもと子ども、大人同士が、肯定的な共感性で支え合うことのできる組織でありたいですね。